

育成について日頃僕が思うこと

早いもので、2006年4月で育成クラスが旗揚げして2年が経ち3年目が始まった。この2年で計8人（現在は4名）が僕と携わり、互いに教え教わりながら過ごしている。

はぐく 育めテニス道

テニスは人生の縮図です。
テニスを通じて人間力（「心」、「技」、「体」等）を高めよう。
しっかり基本練習をして、しっかり応用練習をして、気がついたらたくさん勝てるようになっていた。そんなレッスンにしたいです。
これは、僕とみんなの新しい大きな挑戦です。

これは僕が2年前に掲げた目標で、この信念は今も変わらず全くぶれていない。然れど、僕の信念に則^{のっと}って貫いている一挙手一投足が僕の言葉（コミュニケーション）不足も手伝って大切な子供達や親御さんに誤解を招くようでは心外なので僕が日頃考えていることについて少し文章にしてみたいと思う。

御存知の方も多いと思うけれど、練馬区周辺に名門テニススクール（育成クラス）はゴロゴロと存立している。先にも述べたが、そんな中で我がタウンテニスでも2年前に育成クラスを立ち上げた。本来なら他の名門テニススクールの選手に負けない選手を育てることに一心不乱にならなければならない筈なのに僕の中にどうしても払^{ふっしょく}拭できない感情がある。「人間力を高める」

極端な言い方をすると、僕の指導はこの言葉が起点になっている。どういふことかというと、試合で負けない強い選手を育てることよりも、いい人間になっ

てもらう方を優先してしまうのだ。当然の帰結として、僕の指導は勝利至上主義ではない。勝利に餓えた子供や親御さんは、僕のやり方に違和感を覚えコーチとして失格に映るだろう。しかし小、中学生という人間形成の大切な時期に目先の勝利にこだわり、楽しいはずのテニス（スポーツ）を押し付けがましい強制でつまらない物に変えてしまう危険性を^{はら}孕みながら、将来的にどこまで伸びるか想像することすら計り知れない未来を僕の手で壊したくない。だからといって僕の指導がただ自由であればいいという訳ではない。僕が求めているのは、僕が出す（打つ）ボールを、的を狙ってドフラットで引^{ばた}叩いてくれれば、その球がどこへ行こうと満足だ。それさえしていれば上手くなるという確信がある。しかし、言葉にすると簡単なことが小、中学生の子供達にとって月、水、金と週3回、2時間強のレッスンでできるかというところがなかなか難しい。

「心」のない日は、すぐに^{わか}判る。小、中学生の「心」でいつも目をギラギラさせてコートに立ち続けるのは^{しなん}至難^{わざ}の業だ（おそらく大人でも大変な作業だろう。それに試合に行って負けてしまったり、手の豆が^{つぶ}潰れたりというも良い状態でコートに立てる程人生は甘くない。「心」のない（気持ちの入らない）時に本当の自分がでてくるものだ。僕が子供達に一番身体に^{まと}纏ってほしいものは、テニスはもちろん、テニス以外の何をしたとしても、その物事に対して立派に振舞える態度（「心」）だ。大人になった時に周りの人から「あの人ならきっと何をやっても大丈夫」と評価をもらえるような人格者になってほしい。ただそれだけだ。テニスが好きで楽しくて始めたのに、好きな物ですら成し遂げられないようでは、興味のない物では到底何も成し遂げられないように思うから・・・。

それから子供達と親御さんにスポーツを始めた原点を忘れないでほしい。みんな

なはテニスが好きで楽しいからテニスを始めたんだろう。親御さんもスポーツをすれば、体を鍛えられて健康的だしい人間になるだろうとの思いでテニス（スポーツ）をやらせたんだろう。現在^{いま}思うと僕が若かった頃は、スポーツをしている人間に悪い人間はほとんどいなかった。しかし残念ながら現在は、不祥事を起こす人間（大人も子供も含めて）にスポーツマンが多いように思う。昔と違ってスポーツをしていればいい人間に育つという時代ではない訳だ。それはスポーツに対する取り組み方が、間違っているからに他ならない。何より連帯（ソリダリテ）を身体で感じなければいけない時期に仲間を敵にしか見えないような状況に置かれたたら子供の性格は捻^ねじ曲がって無連帯（アノミー）になって、子供らしい澄んだ目もおかしくなって死んでくるのは当然だろう。何も僕は、左翼^{さよく}の馬鹿な先生達の様に「徒競争でゴールする時は足の速い子も遅い子も、皆^{みんな}で手を繋^{つな}いでゴールしよう。」なんて言っている訳ではない。内容（空気）が大事だと言っているだけだ。その内容（空気）を作るのが僕の仕事だ。それができれば喜んで勝利のために、勝利を勝ち取るための手助けをさせてほしい。そうなることを僕が誰よりも望んでいるのだから・・・。

最近、生徒とお母さんと3人で話す機会があった。生徒とお母さんにテニスが「上手い」と「強い」の違い（僕の技術論については、僕のレッスンを受けたことがない人には難解至極だと思うし、レッスンを受けている人にも、僕は他のコーチに比べて「あーしなさい。こーしなさい。」と教える方ではないので、又又誤解されては心外なので興味のある方は、今年の2月に僕の技術論を書いた解説書を完成させてあるのでそちらを参照して下さい。）を説明して、お母さんに「お子さんに何を望みますか？」と聞いてみるとなんとお母さんは「楽し

く、上手くて強くして下さい。」と仰った。僕は、公務員の息子で、何不自由なく育ったけれど、1ヶ月3万6千円というレッスンフィー（他のスクールと比べてもタウンテニスは高い方だろう）は高い金額だという自覚は過分にあり、「楽しく、上手くて強く」出来たら完璧だと思いながらも、僕の最終目標はそこにある訳だし、それを成就するために如何に短いタームでなしとげられるかが僕の勝負なのだろう。上手くするには何かを我慢しなければならないし強くするには何かを我慢しなければならないのはいうまでもないことだけれど・・・。
これからも綱渡りのような自問自答の日々は続く。

平馬 富人^{もと}の下で育成クラスが続く限り・・・・・・・・。

2006年4月

平馬 富人